

読書推進運動

No.697 =野間読書推進賞特集=

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

第55回 野間読書推進賞贈呈式



受賞者とその推薦者・関係者と、野間省伸会長、選考委員のみなさん



2025年（令和7年）

野間読書推進賞受賞者表彰（第55回）

☆受賞者

団体の部

・公益財団法人
ふきのとう文庫

個人の部

・岩田 美津子さん
(大阪府)

(北海道)

野間読書推進賞は、永年にわたりて読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を、全国から寄せられる推薦のなかから選び、顕彰するもので、毎年、「読書週間」の期間中に贈呈式が行われています。

× × ×

本年の贈呈式は、11月7日（金）午前11時から、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて、受賞団体の代表者および受賞者2名と推薦者など受賞者関係者、読書推進運動関係者の出席のもとに開催されました。

式は野間省伸・公益社団法人読書推進運動協議会会長のあいさつで始まり、次に選考委員会を代表し、黒木義博さんが選考経過報告を行い、野間会長より受賞者へ賞が贈呈されました。続いて、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課図書館・学校図書館振興室専門官稻田幸昌さんの祝辞のあと、各受賞者がいさつに立ちました。

☆賞

賞状および賞牌

☆副賞

金三十万円
(団体の部)
金二十万円
(個人の部)

贈呈式後の祝賀会会場には、受賞者が持参した布の本、てんやく絵本などが多数展示され、ちょっとした見本市のよう。歓談の輪が広がる、和やかな雰囲気の会となりました。

受賞者業績

《団体の部》

公益財団法人
ふきのとう文庫

住所 北海道札幌市
代表理事 高倉 嗣昌 さん

公益財団法人 ふきのとう文庫
は「障害をもつ子どもにも差違が
あり、文化を享受する権利がある」
を信念に、半世紀以上活動してき
ました。

母体となつたのは、初代理事長

小林静江さんが1970年に江別
市で開いた家庭文庫です。ご家族
の療養生活の看護経験から、在宅
療養児・障がい児へ読書の喜びを
届ける必要を感じた小林さんは、
家庭文庫を身体障がい児専用に切
り替えました。その後、病院や特
別支援学校への働きかけを経て、
1973年に小樽市立病院小児科
病棟ブレイルームに日本初となる
病院文庫「ふきのとう文庫」を設
置。あわせて、在宅療養児への図
書の貸出も始めました。身体障が

い者への録音テープや図書の郵送
料の無料化を求める国会請願にも
尽力し、1976年に身体障がい
者団体の第三種郵便料金の据置と
身体障がい者への図書籍小包半額の
成果へとつなげました。1979
年に財団法人の設立許可を得て、
1982年に札幌市に拠点となる
「ふきのとう子ども図書館」を開
館しました。

ふきのとう子ども図書館は一般
に開かれた蔵書約1万6000冊
の図書館ですが、その特徴は図書
館内に独自の工房を設け、「拡大写
本」「布の本」など、障がいのある
子どものための本をボランティ
アが手作りしていることです。特
に布の本は、布のあたたかさ・や
わらかさに加え、ボタンやファス
ナーなどを用いたしかけで、子ど
もたちが障がいの有無や年齢を問
わず一緒に遊べるように工夫され
ています。これらのバリエティー
図書は同館で閲覧・貸出されるほ
か、病院や公立図書館などへ寄贈・
貸出・販売され、作成ノウハウを
蓄積し、館内だけでなく外部へ伝

えるなどネットワーク形成にもつ
ながっています。

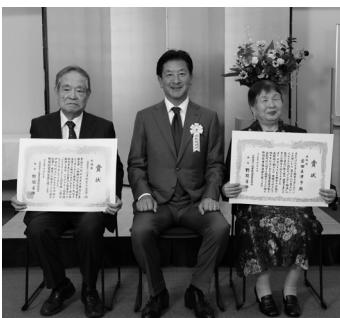
近年では、近隣小学校図書館ボ
ランティアとの交流 民間企業と
の連携、日本財團「子ども第三の
居場所」として子育て拠点「ふき
のとう・こどもクラブ」の新設な
ど、さらに事業を広げています。

小林静江さんは2017年に亡
くなられましたが、その思い・意
志を引き継いで、ふきのとう文庫
は、地域の読書普及・読書バリア
フリーの実現にこれからも大きく
貢献していくます。

【推薦団】

札幌市教育委員会

教育長 山根 直樹



《個人の部》

岩田 美津子 さん

住所 大阪府大阪市

岩田美津子さんは、ご自身が全
盲です。晴眼者である息子さん
に「ふつうの親子のように、絵本
を読んであげたい」と思ったこと
がきっかけで、「さわる絵本」と
出会いました。いろいろな絵本を
もつと気軽に、自由に読みたいと
願った岩田さんは、友人・ボラン
ティアの協力を得て、「てんやく
絵本」の製作に乗り出しました。

今から40年以上前のことです。
市販の絵本の文字を透明なシート
に点訛して、文字の上に重ねて
貼り、絵の部分も可能な範囲で
シートで形を切り抜き、絵に重ね
ました。親子で絵本を楽しむ素晴
らしさを、同じ立場の人たちにも
味わってほしいと願い、1984
年、岩田さんは自宅に「占訛絵本
の会岩田文庫（現・てんやく絵
本ふれあい文庫）」を開き、郵送
で「てんやく絵本」の貸出を始め
ました。貸出にあたり、占訛絵本
の郵送料無料化を国に働きかけ、
1987年に無料化が実現しま
した。現在「てんやく絵本」は、



岩田さんの思いは、「見えない
私たちも、見える人と同じ環境
で生活したい」「子どもと図書館
や書店へ行き、絵本を手に取りた
い」と、さらに広がります。図書
館や書店に見えない人が楽しめる
絵本を置いてもらうには出版する
しかない」と、「てんやく絵本」の
出版化に向けて試行錯誤を続け、
1996年に日本初のフルカラー
点字つきさわる絵本『チヨキチヨ
キチヨッキン』をこぐま社から
出版しました。このときについた
出版社・印刷会社・子どもの本関

係者との結びつきから、「点字つき絵本の出版と普及を考える会」が2002年に発足し、現在、複数の出版社から約30点の点字つき絵本が刊行されています。

点字つきさわる絵本をもつと知つてほしいと、岩田さんはパネル・資料などの展示セットも用意しており、希望する図書館やイベント会場などに貸出もしています。絵本は「見るもの」の概念を見て、さわるもの」に変えたい。子どもたちには親の愛情とぬくもりを受け取りながら、視覚で絵本を楽しめ、指で伝わる感覚を感じてさまざまな想像をしてほしい。点字つきさわる絵本を障がいの有無に関わらず子どもたちと楽しむ意義を、読み聞かせの現場にもつてほしいと、岩田さんは願っています。

これまでにも、多数の賞を受賞しており、1998年には国際児童図書評議会（IBBY）より「IBBY朝日国際児童図書普及賞」を贈られるなど、その活動は国内外問わず、高く評価されています。

【推薦者】

一般財團法人

出版文化産業振興財团

理事長 近藤 敏貴



野間読書推進賞 賞牌

★受賞決定までの経過

●2025年(令和7年)5月15日

全国都道府県教育委員会委員長
および教育長、都道府県中央図書館および読書推進運動協議会のほか、全国市町村教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、日本新聞協会、日本放送協会、日本民間放送連盟などに候補者推薦を依頼しました。植松貞夫
☆選考委員

公益社団法人 全国学校図書館協議会 読書活動振興プロジェクト担当 理事長

黒木義博
一般社団法人 全国学校図書館協議会 読書活動振興プロジェクト担当

野上 晓

児童文学・文化研究家

一般社団法人 日本国際児童図書評議会副会長
(五十音順・敬称略)

●2025年(令和7年)7月31日 候補者推薦締切。推薦数は11団体、4個人。

●2025年(令和7年)8月22日 野間読書推進賞事業委員会による選考準備委員会を開催。各候補者への評価・その理由を討議し、9団体4個人を選出。

●2025年(令和7年)9月12日 これについて事務局はさらに実情調査などの結果をまとめ、選考委員会に提出しました。



選考経過報告をする黒木義博さん

★野間読書推進賞について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、出版界と読書界との協調をはかり、広く国民各層に対し、読書の普及を促進し、もつてわが国の文化と社会の進展に寄与することを目的として、1959年に創立。以来、「読書週間」をはじめ多くの事業を行っております。

「野間読書推進賞」は、「読書週間」の関連事業として1971年に創設したもので、地域・職域などにおいて、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を顕彰してまいりました。

この賞は、故野間省一株式会社講談社元社長より、1969年に読書推進運動協議会の社団法人設立を機に基本財産として金1千万円、1979年には講談社創業70周年を記念して金1千万円、さらに1987年には講談社創業80周年を記念して金2千万円の寄付を受け、この基金を中心に贈呈するものです。また、2002年にも講談社より金2千万円の寄付を受けています。

第一回から第14回までを「読書推進賞」と称し、1985年(第15回)から、故人の遺徳を偲んで「野間読書推進賞」と改称しました。



てんやく絵本を手に取る植松貞夫さん



祝賀会で談笑する野上暁さん（中央）

社講談社元社長より、1969年に読書推進運動協議会の社団法人設立を機に基本財産として金1千万円、1979年には講談社創業70周年を記念して金1千万円、さらに1987年には講談社創業80周年を記念して金2千万円の寄付を受け、この基金を中心に贈呈するものです。また、2002年にも講談社より金2千万円の寄付を受けています。

第一回から第14回までを「読書推進賞」と称し、1985年(第15回)から、故人の遺徳を偲んで「野間読書推進賞」と改称しました。

挨拶と祝辞



贈呈式

主催者あいさつ

公益社団法人
読書推進運動協議会

会長 野間 省伸

本日「野間読書推進賞」を受賞されるみなさま、本当に、おめでとうございます。

ご選考にあたられた植松貞夫さま、黒木義博さま、野上暉さまのお三方、本当にありがとうございます。

今年も受賞者にそろってご出席をいただき、贈呈式と祝賀会を開催できる運びとなりました。お忙しいなか、ご列席くださいましたみなさまに厚く御礼申し上げます。

「野間読書推進賞」は、長く読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献してこられたみなさまに対して贈られます。1971年に始まり、第55回を迎えます。今は本賞1団体・1個人を顕彰い

いたします。受賞者は、トータル251の団体・個人の方々となりました。本日の受賞者は、団体・個人ともに、身体や視覚の障がいなど、ハンディキャップがあることでもたちに対する、長く、粘り強く、そして創意工夫に富んだ活動をされきました。「読書バリアフリー」への貢献に心からの敬意を表したいと思います。

また現在、第79回 読書週間が開催中です。今回の標語は「このひととあたまの、深呼吸。」です。ポスターは例年標語、イラストとともに公募によって制作をしています。今年のポスターは、読書でゆつたりした時間を過ごすことの大切さを、あらためて訴えている

ところだと思います。

読書の普及に尽力されているみなさまの、いつものご支援とご協力をお願いしまして、「あいさつ」といたします。

読書の普及に尽力されているみなさまの、いつものご支援とご協力をお願いしまして、「あいさつ」といたします。

受賞されたみなさまは、各地域において長年読書活動の推進に尽力され、地域における読書活動の普及に大きく貢献されてこられました。本日の受賞について、心からお祝いを申しあげるとともに、

みなさまの読書普及への熱意ある

取組に対し、深く敬意を表します。

子どもの読書活動は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」です。一方、近年、ICTの急速な発展などにより、子どもを取り巻く読書環境は大きく変化してお

祝辞



文部科学省
総合教育政策局 地域学習推進課
図書館・学校図書館振興室 専門官
稻田 幸昌

文部科学省地域学習推進課図書館・学校図書館振興室の稻田と申します。お祝いのことばをひとつ述べさせていただきます。まず

本日受賞されたみなさま、まことにめでとうございます。

このため、文部科学省では、昨年12月より「図書館・学校図書館



祝賀会会場ではバリアフリー図書を熱心に視察

の運営の充実に関する有識者会議を開催し、デジタル社会への対応、多様な人々のための読書環境の整備などの課題を検討しています。また、本年3月には、読書読書推進運動協議会は、本を読むことのすばらしさを訴え続け、従来にも増してすべての方に本と親しみをかけを提供してまいります。

読書の普及に尽力しているみなさまの、いつものご支援とご協力をお願いしまして、「あいさつ」といたします。

野間読書推進賞を受けて



今日の読書を
どう捉えたらいいのか

公益財団法人
ふきのとう文庫
代表理事
高倉 嗣昌(北海道)

このたび、半世紀以上の歴史を持つ「野間読書推進賞」をお受けしたことはまさに光栄であり、日々の活動に取り組んでいる当文庫関係者にとってなによりの励ました。

当文庫の特色をひとことで申し上げますと、私立バリアフリー子ども図書館であることです。一般に広く開かれた図書館ですが、土地・建物は自分で所有しており、そこでバリアフリー本である布の本や拡大写本を約50人のボランティアが手づくりし、それ

図書館に加えて館内に工房を持つており、そこで「子ども第三の居場所」などがあげられます。私たちが運営する図書館は、これまでの「教育的」側面よりもむしろ福祉面の「子育て」の方に軸足が移りつつある

よう見えることです。

当文庫の活動に引きつけて考えならば、おもに図書館ネットワークを通じて広めようとしている布の本の活用方法への影響に注目しなければならないでしょう。

当文庫は約50年前、家庭文庫から始まり、約40年前に拠点となる図書館を開館しました。

その点からいくと、読書推進そのものを半世紀にわたり微力ながら進めていたことになり、それを評価していただいたことはたいへんうれしいことです。ありがとうございました。

他方、これまで培つてきた「読書活動」をそのまま継続していくことだけではすまない大きな変化に直面していることも、感じざるを得ません。

まず、社会全体の活字離れに加え、電子図書の普及などによって、読書の形が多様化し、旧来の定型的な読書像が揺らいでいること。そして、学校図書活動の広まりと深まりによって、子どもたちがわざわざ図書館に足を運ぶ必要性が低下傾向にあること。

さらに、「子ども第三の居場所」などが注目され、読書が「教育的」側面よりもむしろ福祉面の「子育て」の方に軸足が移りつつある

していく有力なきっかけになる存

在と捉えております。

布の本は紙の本と違い、おもちゃに近いものと受け止められがちですが、当文庫を利用する子どもの年齢層が就学前に移行する傾向にあるので、直接本との関連は薄くとも、ブックスタートの意味から、将来読書を好む人を増やす

べきであります。

賞をくださいましたこと重ねてお礼申し上げます。

認識しております。

その点で、これまでの実績を認めただいたもの以上の意味も効があり、今後の新しい活動に繋げていきたいものです。

お礼申し上げます。



【上】ふきのとう子ども図書館の工房での布の本づくり
【下左】図書館内でのおはなし会
【下右】図書館エントランス



→受賞者あいさつでは、布の本の魅力を紹介されました

野間読書推進賞を受けて



「さわる楽しさ」を
体験してください！

岩田 美津子（大阪府）

人たちにも味わつてもらいたいと願い、1984年、郵送による販売活動を始めました。当初はそれに送料がかかつっていたのですが、この絵本も「点字用郵便」として扱つてもらえるよう郵政省（当時）に働きかけ、1987年にそれが認められ、てんやく絵本は誰とも送料無料でやり取りできるようになりました。

その後、手づくりではなく絵書館に並んでいてほしいと願うようになり、1996年に国内初のフルカラーの点字つき絵本『チヨキチヨキチヨッキン』を世に送り出しができました。その反響が大きかったこともあって、みんながそれを求めていることを実感した私は、2002年に「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を発足させたのです。

今からおよそ半世紀前、見えない私がわが子と絵本を楽しみたいと思ったとき、それに応えてくれる絵本はほとんどありませんでした。そこで友人の知恵を借りて考案したのが「てんやく絵本」です。市販の絵本に透明なシートを使って文字を点訳し、絵も同じシートで形を切り抜き、それぞれ文字と絵のところに貼り、見える子どもと見えない親が楽しめるようにしました。私たち親子は豊かな時間を過ごすことができました。

その喜びと同じ視覚障がい者のために、ボランティアの手作業によって作られたてんやく絵本で、私たち親子は豊かな時間を過ごすことができました。

絵本ではありません。見える人もさわって絵本の世界を広げてほしいのです。

さわることの楽しさを体験してもらうために、今、私たちは図書館などに展覧会の開催を呼びかけています。この巡回展を進めると

き、最大のネックになるのが展示物をやり取りするための送料です。図書館は予算に余裕がないところが多く、さりとてボランティア団体であるふれあい文庫にもその余裕はありません。今年度は伊藤忠記念財団より助成金を得られ、それで賄つていますが、来年度はどうしようと思つていたと

きの愛賞を励みに、もつともつと多くの図書館で、展覧会を開催してもらえるように働きかけていきます。

この愛賞を励みに、もつともつと多くの図書館で、展覧会を開催してもらえるように働きかけていきます。



→受賞者あいさつでも、さわる絵本ふれあい文庫では、ボランティアさんがあんやく絵本の制作に大活躍！

上・右 稲田さんが始めた「てんやく絵本ふれあい文庫」では、ボランティアさんがあんやく絵本の制作に大活躍！



第55回 野間読書推進賞贈呈式



野間読書推進賞 これまでの受賞者からの近況報告

いた、これまでの野間読書推進賞受賞者からのメッセージ、近況報告をご紹介します（文章を一部、割愛しています）。

*ますます
たします!!

第5回

二二

平日

りあげ、

舌頭先生の
読書会

をしまし

四
た。



左から木戸親子読書会の熊谷徳子さん・
栗山由香さん、スギヤマカナヨさん

獎励賞 板野町読書会（橋本雅公さん）
徳島県
*栄えある賞、たいへんおめでとうございます。これからもよりいつそうの活躍を心からお祈り申しあげます。

ノリアブリーー図書によつて、自分
にあつた読書の方法を見つけた人
は多いことでしょう。永年の活動
に敬意を表します。

たるこ活躍に心から敬意を表します。どうぞよろしくお願いします。
ちらさまとも高知こどもの図書館は、縁をいたしております。ほんとうにうれしく、喜びをわかつあいいたい気持ちです。当館も継続の力を大切に歩んでまいります。

*特別賞 永井伸哉さん 烏取県
＊本との出会いを求めて、知の地域づくりを目指し歩み続ける「認定NPO法人 本の学校」の次世代とともに、祝い喜びます。

月の街 林 茂地

広めるため、いろいろな場で活躍されておられる方々、ほんとうにおめでとうございます。私たちの読書会も、来年50周年を迎えます。個人 小林靜子さん（柄木子どもの本連絡会）柄木県＊受賞されたみなさま、おめでとうございます。長きにわたりのご活躍はたいへんなご苦労を伴われ

<p>＊おめでとうございます。故清水達也の関係で北海道文學館を訪れ、札幌市内も散策しました。余裕があればふきのとう子ども図書館を訪ねたかったです。札幌は知人たちがいる懐かしい土地です。</p>	<p>＊尊い思いの読書への取り組みに、深く感銘いたしました。ご受賞を譲んでお喜び申しあげます。</p>
<p>第25回 1995年</p>	<p>第31回 2001年</p>
<p>団体　名寄声の図書会（工藤久美子さん）北海道</p>	<p>特別賞　大塚笑子さん（朝の読書推進協議会 理事長）</p>

仲間が集まり、遊ぶ場になれる。これが、あると、喜んでいます。
第36回 2006年
個人 高橋美知子さん(NPO法人うれし野こども図書室) 石手島元気
*うれし野こども図書室、元氣に活動いたしております。
奨励賞 認定NPO法人 高知どもの図書館(岡本富美さん) 高知県
*受賞されましたふきのとう文庫

ござります。退職後21年目の今も
地域や他地域の子どもたちや大人
のみなさんと、絵本を楽しんでい
ます。定例おはなし会では、村の
ALT（アメリカ人）も英語の絵
本を読んで、楽しんでいます。
奨励賞 男声読み聞かせ隊 With
Ms.（小山田裕子さん） 北海道
*「受賞のみなさま、まことにね
めでとうございます。今後ますます

よ う こ 桧 の い 八 、



日本書籍出版協会 副理事長の相賀昌宏さんの乾杯で祝賀会スタート！



○ふきのとう文庫

[左]布の本「ドレミのうた」と高倉嗣昌さん・実枝子さん、野間会長 [右]ふきのとう子ども図書館の様子

受賞者活動紹介 & 贈呈式・祝賀会

受賞者からいただいた活動写真、贈呈式・祝賀会の様子をもう少しこ紹介します



日本のバリアフリー児童図書を世界に紹介しているJBBY宇野和美会長と鳥塚尚子事務局長からの花束贈呈！



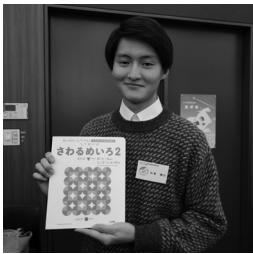
○岩田美津子さん

[左] ふれあい文庫での絵本製作 [右] ふれあい文庫・事務局長の須原正好さんと岩田さん、野間会長





1組目は南種子町おはなしこども会・北村蒼良さん（中学生！）、テイジー岩手・小池陽仁さん（大学生）、スギヤマカナヨさんの勝負。1分たたずみ、小池さんがゴール！



優勝賞品は『さわるめいろ』です！

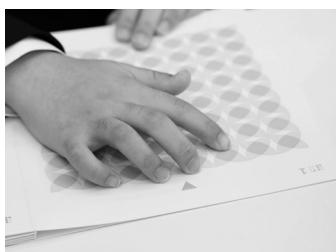
祝賀会メインイベント？ 『さわるめいろ勝負』

【ルール】

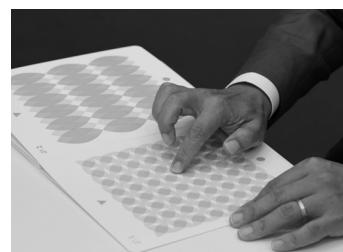
- ・はじめの30秒は目をつぶって挑戦
- ・30秒たら、目を開けてOK
- ・いちばん早くゴールした人が勝ち。制限時間は3分間



勝負後、岩田さんにコツを教わった野間会長



岩田さんと「点字つき絵本の出版と普及を考える会」が協力した絵本『さわるめいろ1～3』（小学館）は、点字の線をさわってたどる迷路。カラーの印刷部に、パターン模様を配置し、点字迷路を隠す効果を出しているので、見える人も見えない人も、歯ごたえのある迷路遊びができます



野間会長、日本図書館協会・植松貞夫理事長、国立国会図書館国際子ども図書館・上保佳穂館長による2組目は、苦戦しながらも「あ、ゴール！」と上保館長の勝利！

【左】高倉さん、親地連の近藤君子さん・篠沢治子さん

【右】国際子ども図書館・上保館長、岩田さん

そのほか、東京子ども図書館、伊藤忠記念財団、小川範子さん（宇都宮子どもの本連絡会）のみなさんもご参加くださいました





【上】布の本・拡大写本について高倉さんと語る、南種子町おはなしこども会・北村則子さん、大

平点字の会「どんぐり」・清水泰子さん
【下】フェルトでできた布の本とおもちゃ。見てもさわってもあなたかさが伝わります



【上】てんやく絵本・点字つきさわる絵本がいっぱい！

【下】ティジー岩手の成田優子さんは、甥の小池さんに「点字つきさわる絵本『いないないばあ』を読み聞かせしていたんですよ」と語つてくれました



事務局報告（11月）

●編集部&事務局の
ひ・と・こ・と

- ・4月日『高橋松之助記念「朝の読書大賞」贈呈式』
賞=『文字・活字文化推進大賞』贈呈式
出席(出版クラブビル)

☆5月日『野間読書推進賞』要項出来
☆7月日『第55回 野間読書推進賞』贈呈式・祝賀会開催

・9月日『有楽町ブック・ウォーカー』で読書週間ボスターギャラリー実施(～10月1日)
☆10月日～2026「こどもの読書週間」「読書週間」禮賀賀集締め切り

☆10月日『機関紙『読書推進運動』696号入稿
☆11月日『機関紙『読書推進運動』696号責了
☆14月日『機関紙『読書推進運動』696号出来
出来
☆17月日『若いい人に贈る読書のすすめ』
リーフレット入稿
・17日日『上野の森親子ブックフェスタ2026』運営委員会出席
・19日日『伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」選考会出席
リーフレット責了
・25日日『日本出版クラブ震災対策室 第6回運営委員会出席
☆28日日『若いい人に贈る読書のすすめ』リーフレット出来

●「なぜ、この人たちが今まで受賞していないのか?」と、事業委員会員会・選考委員会そして発表後も多くの話題となつた、今年の野間賞は多くの方にご参列いただきました。

●贈呈式前に、受賞者から届いた展示用資料を確認しているうち、展示するだけではもつたいない、なにかおもしろいことができないか?と企画したのが「さわるめいろ勝負」。ルールは事務局スタッフによるリハーサルで決めました。挑戦してもらう方には「断られたらどうしよう?」と不安を抱えながら、当日にお願いしました。みなさん「できるかな?」「むずかしそう」など言いつつも、「快諾」くださり、ホッとしました。

●さて、勝負後、岩田さんに「むずかしいですね」とコツを聞いた野間会長。「岩田さんが『なぜ、みなさん指一本だけしか使わないんですね?』私たちちは、全部の指を使い、全体を把握しながらやりますよ」だつて。手からウロコ!と、満面の笑みで教えてくれました。デイジイ岩手の成田優子さんは「私も全部の指を使っています。卓字を読む指は全部ではないですが、小指などはページや行の端を確認しています」とのこと。

確かに、目で読むときも、ページ全体を視野に收めてから読む行と文字とに焦点をあわせます。さわる楽しさ、読む楽しさ、そして、おたがいの読み方を知る楽しさにあふれた、祝賀会となりました。